

## 当院倫理委員会で承認された治療法に関する情報公開文書

当院の倫理委員会にて、下記の治療法が承認されました。病院ホームページにて情報を公開することにより、患者さん（若しくはそのご家族）から同意をいただくことの代わりとし、治療を実施します。なお、本件について同意できない場合でも、診療において不利益を被ることはありません。内容に関して拒否される場合やご質問がある場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

実施内容	脳血管内治療時におけるプラスグレルの使用について
実施責任者	一之瀬脳神経外科病院 脳血管内治療部長 一之瀬大輔
対象患者	当院で脳血管内治療を受ける患者であり、クロピドグレル不応症が疑われる方
承認日	2026年3月31日
概要	<p>血管内治療において動脈瘤コイルやステント、頸部ステント等の金属を留置するような治療（特に金属含有量が多いものや、血栓合併症がおこりやすいと判断される場合等）時に、抗血小板薬のうち、アスピリンやクロピドグレルを用いた2種類の抗血小板薬内服を用いることを、虚血性合併症の発生率を減少させることを目的として行っています。しかし、日本人を含むアジア人の場合、代謝遺伝子の問題でクロピドグレルの効果が減弱する人の割合が高い(20~60%)ことが確認されており、通常の容量を内服していても効果が減弱し血栓症のリスクが増加する可能性があります。プラスグレルは冠動脈領域においては経皮的冠動脈形成術（PCI）前にプラスグレル 3.75 mgをアスピリンと併用することが推奨されています。また脳血管内治療においても日本人を対象としたアスピリンとプラスグレルを脳血管内治療に使用した報告においてもプラスグレルを国内適応内の容量で使用し、有効性、安全性ともに劣勢を認めなかったと報告しています。</p> <p>上記より、当院における脳血管内治療の術前、および術後の抗血小板薬2剤併用療法時にクロピドグレル不応症、または低反応性を示す患者さんや、クロピドグレル内服では虚血性疾患の増加が予想される患者さんにおいてプラスグレルを内服し虚血性合併症を予防することとします。</p> <p>下血などの出血傾向を認めた場合には速やかに減量、中止し、適切な処置を行うこととします。</p>
お問い合わせ	〒390-0853 長野県松本市島立 2093 電話番号：0570-099-365